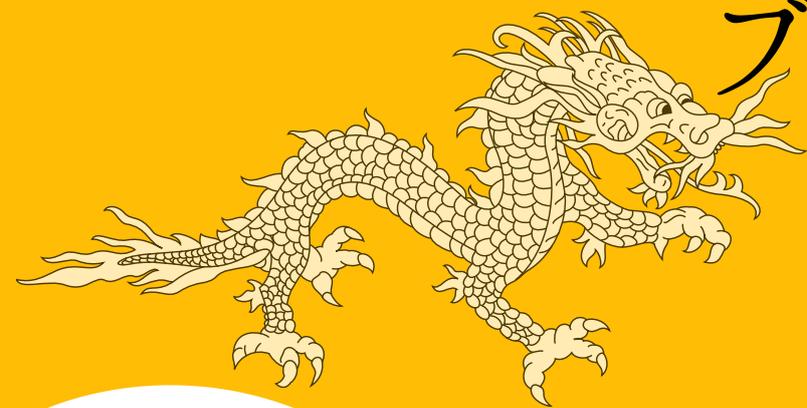


ブータン便り

vol.13



気付けば、任期が残り100日を切りました！

■国境沿いの都市Phuntsholing出張へ

インドとの国境沿いのPhuntsholingに本社を構える企業を2つ訪問。

1. Food Corporation of Bhutan Limited (半官半民)
2. Karma Feeds (民間企業)

- 1は国内農家の輸出サポートや、食料品の輸入を手掛ける所謂代理店。
- 2は国内の畜産農家向けの飼料メーカー (なんと国内シェア75%！)



今までは農作物の収穫・加工・販売と全ての行程を配属先で担っていましたが、企業連携で流通過程を分担できないか？というお伺いが今回のメインピックでした。付随して、需要の多い作物は？買取条件は？などの質問も飛び交い、実りある会議となりました。

会議の後には、Karma Feedsの生産工場を見学させてもらうことに！買取基準・品質管理が徹底されている事や、ロット毎の在庫管理など他企業とは別格という印象でした。帰り際には、企業のロゴ入りグッズも頂きました。同僚も「企業が利益を出せば、こういうものも作れるのね…」と眩いており配属先も早く安定的な黒字化ができるといいね…と大いなる夢を語る私たちでした。

■インドへ買い出し



Phuntsholingへ来たら、インドで買い物をする事が定番！
(関税がない分、ブータンより圧倒的に安いんだとか)

残念ながら、私は許可を得ていなかったのが留守番でしたが同僚に買い物リストを託して買ってきてもらったものは扇風機と民族衣装のキラ！

以前同じ柄のキラを、パロで買おうとした際にはNu3,000それがなんとインドで買えばNu1,650 (円換算はx1.84)まさかここまで価格差があるとは…

最近の出来事

皆さんが気になるトピックをぜひ教えてください！📧<https://forms.gle/aibe16Qnfy8Mp9NZ8>

■犬の言い伝え



配属先の犬（ボクトゥン）

日本のように愛玩動物・家族という感覚ではなく、門番や残飯処理の役割で敷地に犬がいる事が多いようです。昔の日本の感覚と似ていますね。

犬に関しては、宗教的な言い伝えがあるようで

1. 死後、閻魔様に会いに行くまで道案内をしてくれるのが犬。尻尾にろうそくを立てて現れる。
2. 現世で犬を殺してしまったら来世は人間に転生できない。

確かに寺参りに行くと、道中で犬が現れ、目的地までお供される事も多々、、、こういった経験が起源になっているのかな？と感じます。

■おかずの作り置きはNG

よく同僚と話題になる「おかずの作り置き問題」

日本で作り置きは一般的だと思いますが、こちらではとても嫌がられます。

恐らく今30代の世代が子供の頃は、まだ冷蔵庫が普及していなかった事が理由なのかなと感じます。そのため毎食調理をするのが普通で、分割して次の日に食べるという事をあまりしません。

日本人の作り置き文化に驚いたのか、最初の頃は毎日持ち寄るシェアランチも、

「これはいつ調理したの？」と念入りに確認されました。

最近は前日の夜に調理したものを持って行っていますが、

あまり良しとはされていない様子。（衛生面のために、早起きして作れ！とのこと）

直接関係があるかはわかりませんが、同僚達を見ていて感じるのは嗅覚の良さ。

「この食べ物腐ってる」「配管が匂う」など、私が気付かない匂いでも敏感に察知しています。

「おかずが傷みかけている」とランチを捨てられる事もあり、最初はショックでしたがこうやって危険を回避してるのか…と今ではその嗅覚の良さに感心しています。



花里さくら

長野県佐久市出身

2022年11月から青年海外協力隊としてブータンに派遣中